

# ノースクイーン

登録番号：第1864号

登録年月日：平成元年3月27日

登録者：北海道（北海道札幌市中央  
区北3条西6丁目）

育成者：峰岸恒弥 渡辺久昭 小賀野隆一

松井文雄 柿崎昌志 村松裕司

細貝節夫

来歴：「ふじ」と「つがる」の交雑実生

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿は中間で、樹勢は中位であるが、「つがる」よりやや強く、「レッドゴールド」と同程度である。樹の生育は良好で、樹の大きさは中位であり「つがる」と同程度である。頂芽の花芽率は「つがる」より少ないが、頂芽の着生数が多いので1樹当りの花芽数は多い。短果枝の着生は中位で、腋花芽は少ない。開花期は「つがる」より1～3日程度早く、「旭」とほぼ同時期である。開花が早いことから受粉には注意が必要である。収穫期は「つがる」より1週間程度遅く、「レッドゴールド」より1週間程度早く、「旭」とほぼ同時期で、北海道で10月上～中旬となる。

### ■果実特性

果実は260g前後で「つがる」よりやや大きく、果形は円～扁円形である。果色は、地色が黄の強い緑黄色で、陽光面が淡紅に着色する。果面は滑らかで、果粉、脂質はほとんどなく、さびもほとんど出ない。大果では軽いこうあぶ裂果の発生する果実がある。果肉の硬度および肉質は中位で、完熟果ではわずかに蜜が入る。糖度は13～14%、酸度は0.5%前後となり、甘酸適度で独特の香りがあり、食味は良好である。適食期は収穫後～12月中旬で、貯蔵期間は冷蔵で約2か月程度である。冷蔵中における貯蔵障害は認められない。樹勢が強くなると果実品質が低下するため、強剪定や多肥にならないように注意する必要がある。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

標準栽培において特に問題となる病虫害は認められないが、黒星病には「つがる」と同程度に弱く、適期防除が不可欠である。収穫前落果が多く、1樹内果実の熟期にもばらつきがあるため、選り収穫による適期収穫に努める必要がある。隔年結果の傾向が強いため、早期摘果を行うとともに、着果過多にならないようにする。

### ■地域適応性

北海道における主要品種としては、9月下旬から10月上旬に収穫される「つがる」、10月下旬に収穫される「ハックナイン」がある。この間を埋める品種としては10月中～下旬に収穫される「レッドゴールド」があるが、「つがる」の収穫期と2週間近い開きがあり、貯蔵性が1か月程度しかない。「ノースクイーン」は「レッドゴールド」より1週間早く収穫でき、貯蔵性が冷蔵で約2か月と中生種としては長い。このため、北海道のリング栽培地域を対象として、「つがる」と「ハックナイン」をつなぐ黄色品種として位置付けられる。平成5年度の北海道における栽培面積は約10haであるが、食味が良く、葉摘みや玉回しなどの着色管理の必要のない黄色品種として、道央部での栽培が増加しつつある。

(稲川 格)